

平成 24 年 5 月 7 日

果樹類のカメムシ類に関する注意喚起について

1 果樹類のカメムシ類の生態等

果樹類のカメムシ類は、主にチャバネアオカメムシ(*Plautia stali*)、クサギカメムシ(*Halyomorpha halys*)及びツヤアオカメムシ(*Glaucias subpunctatus*)が知られています。

これらカメムシ類は、山林に生息してスギやヒノキ等の球果を餌に繁殖し、山林での餌が不足すると果樹園に飛来して果樹類(かんきつ、りんご、なし、もも及びかき等)の果実を吸汁することで落果や奇形果等の被害を与えます。

このため、果樹園へのカメムシ類の飛来量は、山林におけるスギやヒノキ等の球果の着果量に影響されます。また、球果の着果量は春期の花粉量に影響されますので、的確な防除を実施するためには、花粉量の動向に注意をする必要があります。

2 平成 23 年の発生状況と越冬量

去年は、スギ・ヒノキの花粉量が多く、カメムシ類の餌となる球果量も多くなったため、果樹園への飛来はほとんど確認されませんでした。山林における発生量は多かったと考えられます。

カメムシ類は成虫で越冬するため、前年の山林における発生量が多いと越冬量も多くなる傾向があり、都道府県の病虫害防除所が冬期に実施した越冬量調査では、全国的に越冬量が多いと予想しています(資料 1)。

3 平成 24 年の発生予報

越冬量が多いことから、今後、越冬成虫の果樹園への飛来が増加すると予想されます。

また、平成 24 年のスギ・ヒノキの花粉量は例年に比べ少なく(資料 2)、本年の球果量が少なくなると予想されることから、山林での餌が不足し、夏以降に新成虫の果樹園への飛来が予想されます。

5 月以降、気温の上昇とともにカメムシ類の活動が活発になりますので、都道府県の病虫害防除所が発表する発生予察情報を参考に果樹園及び園周辺の見回りをきめ細く行い、早期発見及び飛来初期からの薬剤防除を実施してください。

また、多目的防災ネットの設置や黄色蛍光灯の夜間点灯等により園内への侵入防止を図ることができます。

(資料 1)

平成 24 年度病虫害発生予報第 1 号(平成 24 年 4 月 19 日農林水産省報道発表資料)

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/120419.html>

(資料 2)

平成 24 年春のスギ・ヒノキ花粉の飛散状況および終息時期について(平成 24 年 4 月 19 日環境省報道発表資料)

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15130>